

# 情報連絡員報告総括表(平成29年4月分)

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品		4			4		1	3			4			3	1		3	1	1	3			4		1	2	1				
	繊維工業		3			3			3			3			3			3			3		1	2			3					
	木材・木製品			1		1			1				1			1				1			1					1				
	紙・紙加工品			2		2			2			2			2				1	1			1	1				2				
	印刷		1			1			1			1			1				1				1				1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		1	2		3			3			3			3				2	1			3				3					
	鉄鋼・金属	1				1			1			1		1			1			1			1			1						
	一般機器	1	1	1	1	2			3			3		1	1	1		3			3		1	2			3					
	電気機器			1		1			1			1				1				1			1			1		1				
	輸送機器		1			1			1			1			1				1			1			1			1				
その他																																
小計		2	11	7	1	19		1	19			19	1	2	12	6	1	17	2	2	14	4	3	16	1	2	13	5				
非 製 造 業	卸売業		1	1		1	1		1	1		2			1	1		2		X				2			1	1				
	小売業	2	2	2		6		2	4		4	2		3	3		3	3								5	1		3	3		
	商店街		1			1		1			1			1			1									1			1			
	サービス業		4	1	X				5		5			4	1		4	1									5			5		
	建設業	2	2						4		4		4		1	3			4									4			1	3
	運輸業	1							1		1		1			1			1									1			1	
	その他		1						1		1		1			1			1										1			1
小計		5	11	4					8	1	3	16	1	1	17	2	2	13	5		16	4			19	1		2	14	4		
合計		7	22	11				1	27	1	4	35	1	1	36	3	4	25	11	1	33	6	2	14	4	3	35	2	4	27	9	

## 最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成28年4月～平成29年4月)

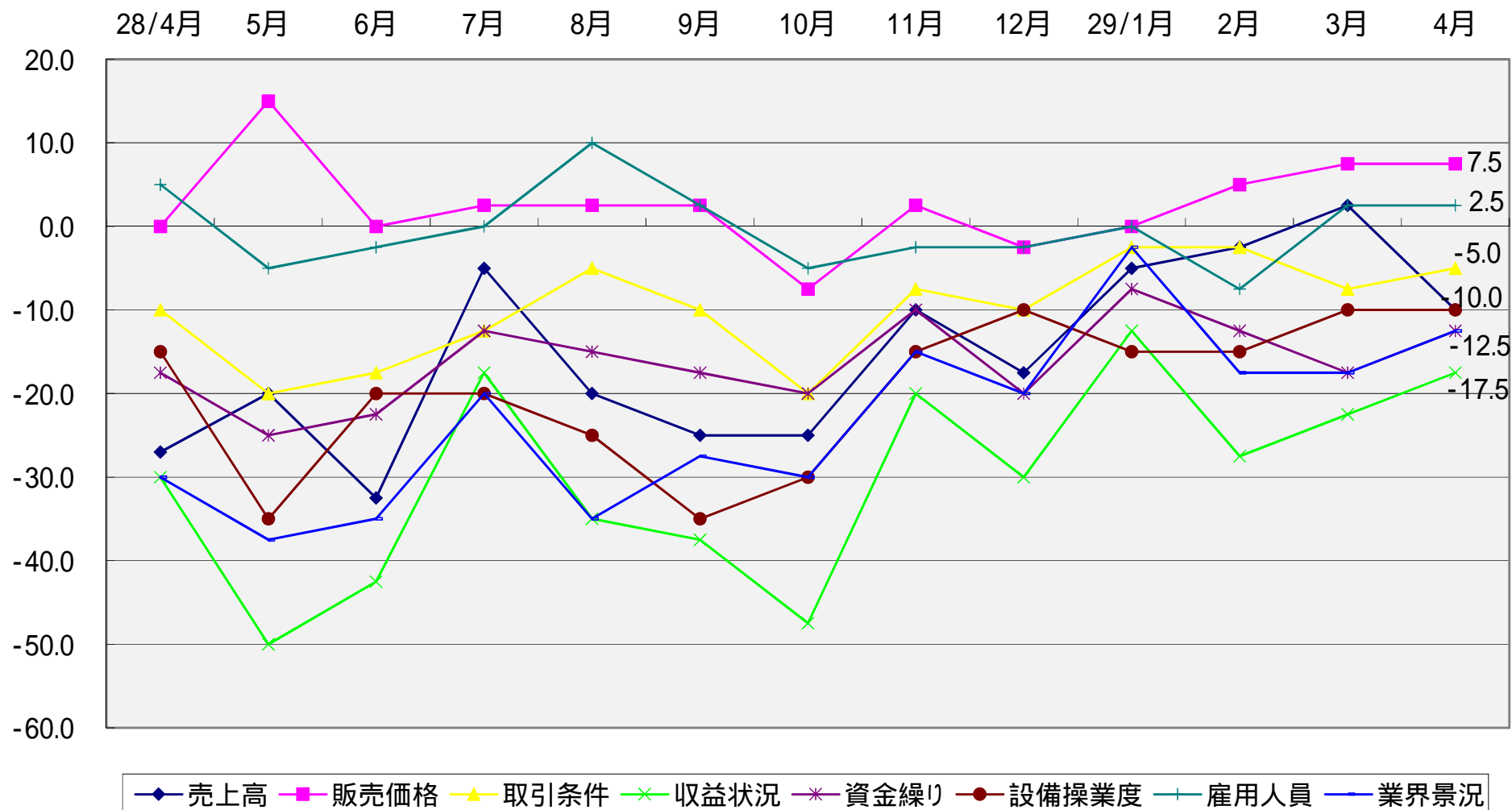
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	28/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29/1月	2月	3月	4月	増減
売上高	-27.0	-20.0	-32.5	-5.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-17.5	-5.0	-2.5	2.5	-10.0	-12.5
販売価格	0.0	15.0	0.0	2.5	2.5	2.5	-7.5	2.5	-2.5	0.0	5.0	7.5	7.5	0.0
取引条件	-10.0	-20.0	-17.5	-12.5	-5.0	-10.0	-20.0	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	2.5
収益状況	-30.0	-50.0	-42.5	-17.5	-35.0	-37.5	-47.5	-20.0	-30.0	-12.5	-27.5	-22.5	-17.5	5.0
資金繰り	-17.5	-25.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-20.0	-10.0	-20.0	-7.5	-12.5	-17.5	-12.5	5.0
設備操業度	-15.0	-35.0	-20.0	-20.0	-25.0	-35.0	-30.0	-15.0	-10.0	-15.0	-15.0	-10.0	-10.0	0.0
雇用人員	5.0	-5.0	-2.5	0.0	10.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0	-7.5	2.5	2.5	0.0
業界景況	-30.0	-37.5	-35.0	-20.0	-35.0	-27.5	-30.0	-15.0	-20.0	-2.5	-17.5	-17.5	-12.5	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成29年4月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	漬物類全体としては、ほぼ前年同期と同様の推移である。全日本漬物協同組合連合会主催の「漬物グランプリ2017」で、青森県の「あんず梅(しそ巻)」がグランプリに、準グランプリには、「みょうが吹雪～さわやか柚子ポン酢味～」が入る等、これまでの漬物類のイメージから、若者のサラダ感覚にもマッチした漬物類が上位にランクインした。また、今、アメリカでは、メロン、アボカド、チーズ、ゆで卵を活用したNUKAZUKEが大人気となっており、今後の研究対象にしていきたい。
		醤油味噌	4月7日～9日に埼玉県越谷市で、4月14日～16日に東員町で開催した「三重・しょうゆ街道」という三重県の醤油メーカーが一同に自慢の醤油などを出品して、展示案内、試食する即売会は、リピーターもあり、好評で定番となっている。海外での開催まで要請がきている。
		豆腐	4月22日、23日に中部日本豆腐揚げ協同組合連合会(愛知県、富山県、長野県、三重県)の総会が三重県四日市市で開催された。各県ともに組合員の減少による組合運営が難しくなっている。
		製麺	昨年は、イオンにて伊勢・志摩フェアが開催されて全国各地で販売されて良いスタートとなった。今年度は、お伊勢さん菓子博が開催されて、多数の方々に来て頂いた。伊勢うどんも2社のフーズの方々が販売し、大変よく売れたという状況を聞いている。
紙・紙加工品	古紙	紙器段ボール	県内業界では、例年並み及び昨年ぐらいか少し下回る数量出荷で推移した。
		4月期の仕入れ量は、前年比:段ボール・約96±3%、新聞、チラシ・約90±5%、雑誌、雑紙、その他・合わせて約93±5%の中での推移である。古紙の発生は前年比マイナスである。製紙会社の生産量に関しては、段ボールは前年並みで製品在庫が過去最高水準である。新聞は4月からのページ減と購読者とチラシの減少があり、生産量が10%程度減少した。雑誌は、スマホ等に代わり、雑紙を含めて5%程度の減少が業界の傾向の様に思える。また、観光客用に紙の利用が増加しているはずではあるが、反映されておらず、情報もない。アメリカ大統領はトランプ氏となったが、フランス大統領は史上最年少のマクロン氏となり、EU支持派が勝利した。遠い過去では、日本で選挙があると紙の消費は増加したが、最近は増加傾向も見えにくい。北朝鮮ミサイル・核問題等の朝鮮半島・東アジア問題もミサイルの打ち合いにはならず、ひとまず安堵している。森友学園問題や豊洲市場移転問題等々があっても、雑誌や新聞は売れずに、紙の消費は減少するばかりである。古紙の持ち行き方も無くなり、古紙の入荷は減る一方である。	
印刷	印刷	例年通り年度末の繁忙期から一転、需要が大幅に減少した。4月より紙の値上げとの情報があったが、今のところ動きは見られない。今年も三重県民手帳の売上金の一部を(公社)三重県緑化推進協議会様へ寄付することができた。青年部では、早くも反省点や新企画を検討しており、県の企画コンペに参加予定である。	
窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館では、入館者数及び売上とも昨年を上回ったが、伊賀・信楽古陶館では、入館者、売上とも昨を下回った。全体では、やや減少気味である。	
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、3月とほぼ同様で若干の増加であった。自動車関連は横並び、電気機器関連は若干の増加、その他の製品はほぼ同様であった。半導体関連は、3月は一段落したが、4月に入り品物を入荷し、かなり増加の状況であった。今後も暫くはこの傾向が続く見通しである。人員確保は正規・非正規共に若干の動きが出てきたものの未だ充足感はない。	
一般機器	四日市	組合員の業況では、先月組合員が脱退した。従来の仕事先からの注文が激減して経営が成り立たなくなった。「好況に向かっている。」という政府、日銀の楽観論に反した。中小企業の悲哀である。	
	伊勢	南勢地区の製造業では、慢性的な人手不足が続いており、派遣会社の人材も時給単価の高い中勢地区・北勢地区へと流出傾向にある。また、他業種における人材確保に向けたパートタイマーの時給上昇が地元企業に波及しており、人手不足を賃金上昇の両面で、しばらくは厳しい経営環境が続くものと思われる。	
電気機器	鳥羽	年度始めにて受発注が少なく、15%ダウンにて推移している。今後の平準化に期待したい。同前期、同期比も同様である。	
輸送機器	鈴鹿	年度始めということもあり、ここ数年、4月は生産量が大幅に落ち込む月であったが、今年の落ち込みはそう大きくはなかった。しかしながら、明るい話題や見通しも特にない中で、従業員の賃金アップに対応するのは、非常に難題である。	
非製造業	小売業	青果	野菜:前半は、天候不良で野菜の入荷が少なく、大根・人参・ジャガイモは高値。タケノコは例年に比べ、入荷が少なく価格が高い。新玉葱は、辛みも少なく、サラダに最適である。後半は、天候にも恵まれ、トマト・胡瓜・ナス・ピーマンがお値打ち、ジャガイモは当分高値が続く。果物:前半、イチゴは入荷も多く、価格もお手頃である。デコボンの入荷は今月いっぱいまでとなりそうである。後半、リンゴは貯蔵量が多く、例年より2~3割安い。かんきつ類は、県内産のおいしい甘夏がお買い得である。スイカの入荷は少なく、高値が続いているが、甘味が強くてもおいしい時期である。
		自転車	通学車のベストセラーモデルの販売も一段落し、新学期が始まった。3月に多くあった定期点検整備も少なくなり、修理に至ってはほとんどない状況である。低価格帯も多く展示する大型店よりも少しでも品質の良い2017年度モデル日商連(日本自転車商連合会)推奨自転車の斡旋を開始したが、4月末になっても、注文書は、一部の店しか届いていない。この先、各ショップの状況は、かなり厳しいものと思われる。

非製造業	小売業	電器	4月期は、各地区でメーカー主催の合同展示会が開催されたが、販売は前年キープが厳しい状況である。商品別では、エアコン・冷蔵庫等が好調に推移、実演を交えた家事商品も好調であるが、テレビ等の映像関連商品は苦戦している。今後の展開については、安定的に大小規模のリフォーム需要の獲得をすることが課題でもある。
		石油	4月の中東原油（ドバイ）価格は、先月対比2ドル値上げで、52ドル前後の推移であった。為替については、円高ドル安であったが、販売価格については、多少値上げ状況であった。国内車両燃料販売については、前年対比各販売会社の実績をみても減販状況である。新車販売についても、ハイブリッド車が主体であり、毎年ガソリンの販売数量が2%～3%の減販であり、各店の燃料販売の増販による価格競争により収益が減少しているのが現状である。5月はゴールデンウィークに向けてのキャンペーンが展開されるが販売価格等の収益向上を考えて販売戦略を行ってほしい。
		スポーツ	新しい年度が始まり、各学校にて新チームが生まれている。特に陸上競技は、5月末がインターハイ予選のため、他の種目より早めの用意が必要となる。準備をし、大会に間に合うように、各組合員の店は頑張っている。それが終わると、甲子園大会の予選の準備に入る。夏休みまでは組合員の店は忙しくないといけない。
	商店街	熊野	2月下旬より募集中の空き店舗を活用した「チャレンジショップ事業」は現在まで入店の申込がなく、引き続き募集中である。今後も、行政や会議所などと連携して、入店希望者を探していく予定ではあるが、一般の小売業を起業する方も今のところないのが現状である。
	サービス業	旅館	伊勢志摩サミットの風評被害で落ち込んでいた昨年と比べれば、多少は好転して通常年の実績に戻ったようである。しかし、大型連休前の一週間は毎年閑散としているが、今年は菓子博が4月21日から開催されているので、期待していたが、例年と変わらなかった。
		警備	官公庁の公共工事も年度始めで仕事量は少し減少したが、4月から賃金の値上げを実施しており、取引条件、資金繰りは不変となった。
	建設業	内装工事業	年度末工事の影響（ズレ？）か前年同期比は増加となった。ゴールデンウィーク以降、新年度はどうなるか不透明であるが、業界としては、なんとか景気が少しでも上向き、売上UPになるよう期待している。
		水道工事業（四日市）	今月は年度始めということで、特に大きな変化は見られなかった。労務単価においては、上昇傾向が続いていると思われる。
	運輸業	トラック	労働時間等の問題から、取引環境に好転の兆しが見え始めた。

### 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	昨年同様に伊勢うどん販売に力を入れていき、又、伊勢うどんイベントやHACCP勉強会に取り組んでいく。
一般機器	四日市	税金の使い方に疑問が多い。被災地の復興、中小製造業の内需拡大策等に使うべき金が他国への援助や軍事費に多額に使われているのではないかと。
サービス業	旅館	有資格者による特殊建築物の点検定期報告が義務付けられているが、高額な費用が発生する。費用負担の軽減のためにも自主点検報告に改正することを求める。